

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)

受験番号

この部分は、

著作権の関係で掲載できません。

受 験 番 号

問一 線部a～eのカタカナを漢字に直せ。

a	
b	
c	
d	
e	

問二 (A)～(C)を補うのに、最も適切な語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

ア すなわち	イ だから	ウ そこで	エ しかし	オ または
A	B	C		

問三 線部Ⅰ～Ⅲの品詞を答えよ。

Ⅰ	
Ⅱ	
Ⅲ	

問四 を補うのに、最も適当な漢字二字の語を文中から抜き出せ。

問五 線部①「土俵に入っている」とあるが、ここで「土俵」の具体例として、あてはまらないものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 思想	イ 文化	ウ 風習	エ 領地	オ 宗教

問六 線部②「その女神信仰があるところには必ず多くの天然痘患者がいるはずだ」とあるが、そのようにプロジェクトチームが考えたのはなぜか。文中の語句を用いて、四十字以内で説明せよ。

-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

問七 線部③「こういうこと」の内容として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア こちらの事情ばかりを優先するのではなく、まずは相手への思いやりの気持ちを持つということ。
イ 相手の文化や生活についてよく理解し、それらが自分のものよりも優れていると認識すること。
ウ こちらの一方的な解釈を押し付けるのではなく、相手の考え方を理解したうえで接すること。
エ 自分の思いは表に出さず、相手の顔色をうかがいながら、使うべき言葉を選ぶということ。

問八 線部④「アイデアを生む」とはどうすることか。文中の語句を用いて、十字以内でまとめよ。

問九 線部⑤「文脈力がある者同士は、初めて出会って、短時間でも、相当アイデアが出る」とあるが、それは互いに何を持っているからか。文中から十一文字で抜き出せ。

問十 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 古代エジプトのヒエログリフの解説には、他の言語との比較や当時の宗教について調査することが大変役立った。
イ インドでの文脈をそのまま利用することによって、アフリカやアジア各地でも天然痘を根絶することができた。
ウ アイデアは偶然生まれるものではなく、自分の経験や知識をうまく組み合わせることで生み出すことができる。
エ 共通理解がなければアイデアは生まれてこないの、複数の人で物事を考えることは高度な作業であると言える。

--

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)

受験番号

この部分は、

著作権の関係で掲載できません。

受験番号

Ⅲ 次の文章は、年老いた者を山に捨てる風習があった時代の物語である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(二十点)

この部分は、
著作権の関係で掲載できません。

問一 線部①「父をいさめけれども父用ゐず」とあるが、その具体的な説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 父に親を連れて帰るように伝えたが、父は耳を貸さなかった。
- イ 父に馬車を使うことを提案したが、父は使おうとしなかった。
- ウ 父に親を捨ててはいけしないと忠告したが、父は聞かなかった。
- エ 父に自分も山へ連れて行くよう願ったが、父は認めなかった。

--

問二 線部②「持ちて帰りて何かせん」の意味として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 持つて帰るにはどうすればいいのか。
- イ 持つて帰っても何にもならない。
- ウ 持つて帰って何かに使おう。
- エ 持つて帰ればきっと役に立つだろう。

--

問三 線部③「持ちて捨てんため」とあるが、何を捨てようというのか。文中から一語で抜き出せ。

--

問四 線部④「云ひける」⑥「養ひけり」の主語として、適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 孝孫 イ 父 ウ 妻 エ 年たけたる親 オ 源谷

④

⑥

問五 線部⑤「心づきて」は「はつと気がついて」という意味であるが、父はどのようなことに気がついたのか。三十文字以内で答えよ。

--

問六 線部⑦「悪しき振舞」とあるが、その具体例が述べられた部分を文中から十五文字で抜き出せ。ただし、句読点は字数に含まないものとする。

--

問七 (A)を補うのに、ふさわしい漢字二字の言葉を考えて答えよ。

--

問八 文中から筆者の感想が述べられた一文を探し、最初の五字を答えよ。

--

問九 本文の内容に合わないものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 孝孫が十三歳のとき、父は妻の言葉に従って、自分の父を山へ捨てに行くことにした。
- イ 父は山へ向かう際、年老いた親を手輿に乗せ、息子である源谷と孝孫に運ばせた。
- ウ 孝孫の必死の訴えを聞いた父は、妻の言葉に逆らって親を連れて帰ることを決めた。
- エ 父を戒め、年老いた親を捨てることをやめさせた孝孫は、世間の評判となった。

--